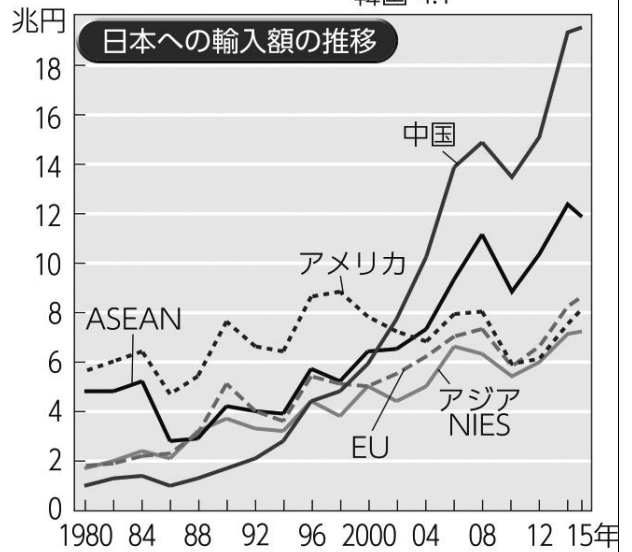
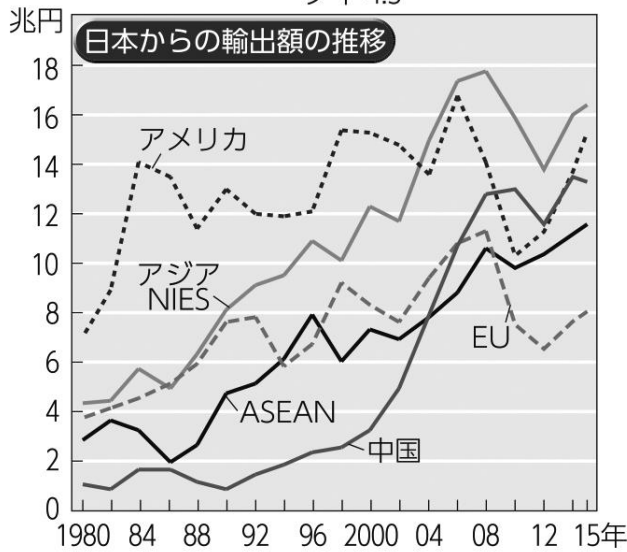
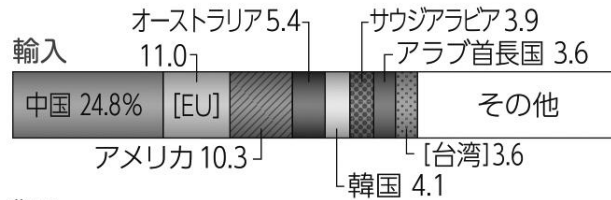
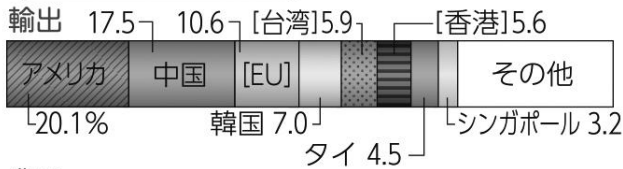


案1

1. 評価問題（高校3年「政治・経済」）

問1 ある生徒が、「日本の貿易相手国」について調べ学習を行った。その際に集めた、次の資料を使って考察を行った。考察として正しいものを、下の①～⑧からすべて選べ。

日本の貿易相手上位国（2015年） []は地域を示す。



- ① 1980年の日本の貿易相手国は、輸出、輸入ともにアメリカが1位である。
- ② 1980年～2015年の間、日本からの輸出額が一番多い国は常にアメリカである。
- ③ 1980年～2015年の間、日本からアメリカへの輸出額が、アメリカから日本への輸入額よりも少なかったことはない。
- ④ 2015年の中国から日本への輸入額は、アメリカから日本への輸入額の2倍以上である。
- ⑤ 2015年の日本と中国との貿易は、1980年と比べ日本の貿易赤字が大幅に増えた。
- ⑥ 1980年と2015年の日本からの輸出額は、いずれもEUよりもASEAN諸国の方が多い。
- ⑦ 2015年における日本の輸出相手上位国で、すべてのアジアNIESは、どのASEAN諸国よりも上位に位置している。
- ⑧ 1980年と2015年とを比較して、上のグラフで示されたすべての国（地域）において、日本からの輸出額は2015年の方が多い。

正解①, ③, ④, ⑤, ⑧

資料『高等学校 改訂版 政治・経済』（第一学習社）より

選択肢のねらい

- ①1980年～2000年頃までは、日本の最大の貿易相手国はアメリカであったということを読み取る。
- ②1980年から2000年頃までは、日本の最大の輸出相手国はアメリカであったが、中国への輸出が急速に増加し、対アメリカよりも多い年もあるということを読み取る。
- ③日本とアメリカの貿易は、常に日本の貿易黒字、アメリカの貿易赤字の状況にあり、このような構造が貿易摩擦を招いてきたということを確認する。
- ④2015年、日本の最大の輸入相手国は中国であり、従来日本の最大の輸入相手国であったアメリカの2倍に及ぶということを確認する。
- ⑤2015年まで、中国と日本との貿易額は大きな伸びを見せているが、中国から日本への輸入の額は日本から中国への輸出の額を大きく上回り、日本の貿易赤字の状況が読み取れる。
- ⑥日本からの輸出額は、1980年にはEUがASEANを上回っていたが、2015年は逆にASEANがEUを上回っている状況を確認する。
- ⑦2015年の日本の輸出相手国を見ると、アジアNIESのシンガポールをASEANのタイが上回っている状況を読み取る。ASEANとの関係の深まりを理解する。
- ⑧1980年に比べ、2015年の方がいずれの国（地域）においても日本からの輸出額が増加していることを読み取る。

- 正解 問1 ①
- 問2 常に日本の貿易黒字、アメリカの貿易赤字の状況にあり、この構造が貿易摩擦を招いてきた。
- 問3 グローバル

2 作問の根拠

『高等学校学習指導要領 公民編 政治・経済』

B グローバル化する国際社会の諸課題

(1) 現代の国際政治・経済

国際平和と人類の福祉に寄与しようとする自覚を深めることに向けて、個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、次の事項を身に付けさせることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けさせること。

(イ) 貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせること。

(ウ) 現代の国際政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けさせること。

(ウ) 相互依存関係が深まる国際経済の特徴について多面的・多角的に考察し、表現すること。

(内容の取扱い)

アの(イ)の貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせることについては、取り上げた事項について、現代の国際政治・経済の現状を踏まえつつ、現実社会の諸事象を通して理解を深めることができるようにすることを意味している。

貿易の現状と意義については、貿易が、国際分業と交換から成り立っていることの理解を基に、現在の世界及び日本の貿易の現状と動向について、具体的事例や客観的な資料を基に理解を深めることができるようにする。

その際、例えば、この考え方に基づく自由貿易論と保護貿易論を対比させながら、現代の貿易の現状や貿易問題と関連させて理解できるようにすることが考えられる。

アの(ウ)の現代の国際政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けることについては、社会の在り方についての見方・考え方を働かせて、現代の国際政治・経済に関する諸資料から、課題の解決という目的に合わせて必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けることを意味しており、大項目Aの中項目(1)のアの(ウ)の解説で述べたことと同様である。

イの(ウ)の相互依存関係が深まる国際経済の特質について多面的・多角的に考察し、表現することについては、国際経済では、国内経済と異なり、労働や資金などの移動に多くの面で制約があったが、経済活動がグローバル化し、地球的な規模で自由に行われるようになっている一方、国民経済と国際経済の関係において、国益と地球的な規模での協調が求められている現状と問題点について多面的・多角的に考察し、表現できるようにすることを意味している。

その際、例えば、アメリカ合衆国、日本と中国のように政治体制が異なっても経済的な相互依存が深まっている国や地域、欧州連合（EU）のように経済統合、通貨統合を推進しつつあるがその矛盾や利害対立を内部にかかえている地域、東南アジア諸国連合（ASEAN）のように急速な経済成長を成し遂げた地域、アフリカなど経済格差が著しい地域など特徴的な地域などを幾つか取り上げ、その現状を調べ、それぞれの地域などが国際経済の中で直面している課題について多面的・多角的に考察し、表現できるようにすることなどが考えられる。また、各国で進められている経済連携協定（EPA）や自由貿易協定（FTA）の進展と国際経済との関連について、国益と国際協調の観点から多角的、多面的に考察し、表現できるようにすることも考えられる。